

平成艸紙



おりおりの記

## 詩吟との出会い

日本証券金融株式会社  
代表取締役社長

小林 英三

還暦を過ぎてしばらくの頃、私は無性に音楽関係の御稽古事にトライしてみたくなりました。ゴルフは確かに健康的で楽しいのですが、100をめったに切れない腕前では趣味というには気がひけます。少し前に始めた囲碁も確かに衰え始めた脳の刺激には良いのですが、結構闘争的なゲームで心の安寧を求めるには不向きな感じがします。

というわけで芸術の薫り高い音楽をと思い立った次第です。しかし、恥を忍んで申し上げると私は音感に欠けるところがあり、例えばクラシックを聴いたとしても、今日の演奏は素晴らしかったとかあの指揮者は今一つだなどという感想は全く持てません。どれもこれも同じように聞こえてしまうのです。聞くのがだめなら自らやるしかありません。でも今更全く触れたこともない楽器演奏はあまりにハードルが高すぎますし、ボーカル系かというところもリズム感と音感に欠けるこの身ではなかなか思うにまかせません。

諦めるしかないかと思い悩んでいたある時ふと詩吟が心に浮かんだのです。あの“鞭声肅肅、、、”というのならば、さして音感やリズム感がなくてもよいのではと考えたのです。残念ながら、私の周りに詩吟をたしなむ人は誰もいないので、やむなくネットで検索を試みました。なんとなく古めかしくて敷居の高そうなどころが多いのですが、一つだけカラオケボックスでマンツーマンで教え

ますという若き女性の教室があるではありませんか！恐る恐る入門をお願いし、早速御稽古とあいなりました。五言絶句、七言絶句を概ね



1分30秒で吟ずるのですから、字余りの歌詞を猛スピードで歌い上げるような昨今の歌に比べれば、はるかに扱いやすい面は確かにあるのですが、ほとんど口伝で微妙な節回しを学ぶのは意外に手強いものです。また、小柄な女性の師匠が圧倒的な声量で吟ずるあとについて真似をすると己のシャビーンな声につい落ち込みそうにもなります。それでもぐっとこらえて何回か御稽古を積むうちに多少は様になってくるのが自分でもわかり、他の人の吟を聞いても少しずつその優劣が判別できるようになってきたのは嬉しい驚きでした。

そしてようやく石の上にも3年近くが経ち、これを音楽とってよいのかいささかの疑問を感じながらも、単調ではあるが結構奥の深そうなこの道にはまりつつあります。いずれは、高校時代以来ご無沙汰になっている漢詩や和歌の勉強もと夢を膨らませている今日この頃です。